

地域活動協議会への支援状況(運営)

【城東区】(受託者:一般財団法人大阪市コミュニティ協会)

めざす姿	地域活動協議会の取組(※)	地域課題やニーズ(支援が必要な課題等)	実施時期	支援策(取組)名称	支援(取組)概要	実績(参加者数等)	
自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)	I 地域課題への取組						
	地域課題やニーズを把握し、これに対応するために安定継続的に活動が行われている	地域課題やニーズに対応した活動の実施	区内の各地域が、自地域の課題や解決の事例を紹介、交換することで、他の地域が課題解決のためのヒントを得るためや、課題を共有するため。	4月25日, 6月29日 9月27日, 10月27日 12月5日	地域活動協議会間の情報交換会支援	毎月1回、各地域が順次、主催地域となり実施する。運営方法や連絡、内容の作成などを支援する。地活協構成員や住民の参加を増やし、担い手の育成にもつとめる。ワークショップを取り入れる。構成団体の各メンバーが地域の活動やファシリテーター役となって議論を促進する。	今福地域(4/25 71名)、鯉江東地域(6/29 67名)、諏訪地域(9/27 63名)、聖賢地域(10/27 60名)、中浜(12/5 50名)、関目東(2/27予定)
			地活協形成後、地域住民対象に避難訓練を実施しており、参加者の増員を図る必要がある。	4月15日～5月29日 実施日:5/29	城東地域防災訓練の企画・広報の支援	災害時の避難訓練を実施する。企画、広報と、当日の運営支援をする。事前に防災リーダーをはじめ、防災部会の構成員に避難訓練の情報提供と運営方法、課題の共有を図り実施する。ポスター作成の支援をおこない、住民の参加を促す。	参加者:136名
			菫地域で子どもがテーマの井戸端会議を実施した。子供に関わりのある区内の団体が参加し、子どもの貧困が課題となる。	7月5日	区内で活動している、子ども食堂の現状の情報提供	子どもの貧困が、地域内だけでなく、地域外でもあることを説明し、その対応のために個人が「子ども食堂」をおこなっている情報を提供し、今後の子供に対する新たな活動を考えるための支援する。	井戸端会議参加者:24名(小学校、学童保育、児童いきいき活動他 11団体)
			森之宮地域では年50名程度の新生児が誕生しているが、子育てサロンの参加者が少なく、孤立している人のつながりが少ないため。	7月21日～11月22日 実施日11月22日	森之宮子育てサロンイベント実施の支援	子育てサロンを知らない、子育て中の母親に対して、子育てサロン事業を知ってもらい、イベントを開催し、それをきっかけに子育てサロンに参加して、相談をしたり、つながりを作ってもらうために、イベント企画の支援する。	会議(出席:5名) 参加者:13組
			小学校と防災訓練での連携が不十分のため土曜事業を活用して、児童、地域住民との避難訓練を実施	8月5日～11月5日	城東地域の小学校との防災訓練実施の支援	小学校の授業中の発災時に、地域住民が小学校へ避難してきた場合、お互いに何を体験するためのに支援をする。小学校等の避難訓練が進んでいない他地域にも案内し、訓練の情報を共有する。	他地域からの見学:3地域(鯉江東地域、成育地域、今福地域)
			今福地域で子どもに対する講座を運営するにあたり、補助金以外に予算を確保する必要がある。	8月4日～11月25日	今福地域のロボットカー教室の財源確保の支援	既存事業で全予算が使われているので、財源を確保する必要がある。子どもに対する新規事業を実施するにあたり財源確保の方法や、活用可能な助成金の提案をおこない、予算確保の支援をする。第1回目は、補助金以外での予算化を支援する。企業助成を申請して、事業を実施の支援をする。	助成金1件
			城東地域で住民の防災に対する意識啓発が十分行われていない。住民が防災に関心を持ってもらう必要がある。	11月18日～	城東地域防災カフェの企画・運営	城東地域で地域住民の防災に対する関心を一層盛り上げるために、防災講演会に替えて、関心を引き参加を促す企画の提案・実施の支援をする。	防災カフェ実施日:2月26日(予定)
			避難所開設訓練を地域役員だけで実施したが、住民の参加がなく、避難所を考える機会がない。	11/29～1/29	城東地域避難所開設訓練の企画支援	第2回目の避難所開設訓練を、地域住民の参加を得て実施する。前回の反省点を踏まえ、地域住民がダンボールベットと試作をおこない、避難所運営を考えることを契機として、訓練参加を促す支援をする。また、他地域に告知をおこない、活動内容を共有する。	避難所開設訓練(1/29 62名) 避難所運営会議(1/13 47名)
			地域で高齢者が多くなってきている中で、各団体の情報や課題の把握が共有されていない。	11/29～1/31	地域福祉情報共有の会議の企画、実施支援	東中浜地域、鯉江東地域、城東地域、今福地域で提案する。地域福祉に関して、高齢者、幼児、児童を対象とする団体(民生委員、保護司、包括支援センター、保健福祉会、学校など)が把握している情報を共有して、課題の確認、共有をおこなう。福祉情報の共有会議を契機に地活協の福祉部会の実施をおこなう。	実施地域 城東地域(1/31 17名) 今福地域(1/27 12名)
法人格の取得							

地域活動協議会への支援状況(運営)

【城東区】(受託者:一般財団法人大阪市コミュニティ協会)

自律	めざす姿	地域活動協議会の取組(※)	地域課題やニーズ(支援が必要な課題等)	実施時期	支援策(取組)名称	支援(取組)概要	実績(参加者数等)
	II つながりの拡充						
イベント等の取組に、これまで地域活動に関わりの薄かった住民の参加が促進され、地域住民同士のつながりが拡大している	これまで地域活動に関わりの薄かった住民の参加の促進	地域に対する愛着が薄く、活動に積極的に参加しない。地域マスコットを作成することで地域に愛着を持ち、地域活動に参加する人を増やすため。	4月1日～7月31日	城東地域マスコットキャラクターの募集及び著作権契約締結、デザインの利用方法の支援。	広報部会のメンバーが中心となり、他部会のメンバーに募集告知を協力してもらい、地域マスコットキャラクターを住民に対して募集をおこない、キャラクターを通じて地域に愛着を持ってもらい、地域の象徴的なキャラクターとして、行事に参加をしてもらう。広報紙、ポスターなど媒体物に常に掲載することで、地域住民への浸透を目指す。募集方法、応募者とのキャラクターデザイン著作権契約の締結などの支援をおこなう。	広報部会(6/2,6/27,7/8 5名) 盆踊りで、発表。	
		区内での住民数が少なく、75歳以上が1000名以上いる地域で、高齢者に対する活動が少ない。高齢者間、地域と高齢者の繋がりが乏しいため。	5月20日～9月19日	中浜地域敬老大会の実施の事務支援	敬老の日に合わせて、記念品を贈るのみであったが、高齢者を催し物会場へ招き、参加をすることで、同年輩の繋がりをつくるために記念行事をおこなう。会議資料の作成、福祉部会会議、役員会の運営などの事務支援をおこなう。また、部会内の団体が連携をとり実施運営するための運営支援をおこなう。	福祉部会(7/29:12名) 大会参加者:180名	
		地域活動において、児童数が少なく児童対象の活動が少ないので、行事に積極的に参加を増やすため。	6月28日～7月23日	今福まつりにおけるロボットプログラミング講座の企画・運営支援	今回を第1回目として、ロボットプログラミング講座を実施する。講座の作り方、効果的な広報の仕方を支援する。また、ポスター掲示、回覧チラシだけでなく、マスコミに対するプレリリースの方法を指導し、広報手段の一つとする。	児童参加数:30名	
		地域行事に参加の少なかった住民や、小学生の行事参加者を増やすため。	7月5日	成育文化祭の運営支援	子どもを対象とした発表会を実施することで、子どもを介在に、地域活動に関わりの少なかった世代の参加を目指す。分かりやすいポスターの作成を指導することで、前年度より参加者を増やす。	参加者:300名 出演団体:10団体	
		成育地域のフェイスブック運営に関して、投稿に対する支援をおこなう。苦情の投稿があれば、運営が停止してしまうため。	7月14日	成育地域でフェイスブック運営のためのワークショップ	フェイスブックを運営しているが、苦情の投稿があれば、そこで運営が停止してしまうので、他区の状況を説明し、効果的な運営方法のワークをする。また、他の運営委員が投稿できるように、運営のルール作りの支援する。	成育地域広報(参加者:5名)	
		森之宮地域では年50名程度の新生児が誕生しているが、子育てサロンの参加者が少なく、孤立している人のつながりが少ないため。	7月21日～11月22日 実施日11月22日	森之宮子育てサロンイベント実施の支援【再掲】	子育てサロンを知らない、子育て中の母親に対して、子育てサロン事業を知ってもらう。イベントを開催し、それをきっかけに子育てサロンに参加して、相談をしたり、つながりを作ってもらうために、イベント企画の支援する。	会議(出席:5名)	
		担い手づくりが少なく、また現在、児童の保護者が地域活動に参加することが少ないため。	8月15日～10月30日	成育地域ハロウィン事業の企画・実施支援	新規事業として第1回目を実施。児童に地域活動の楽しさを体験してもらい、積極的に活動に参加するために実施する。同時に児童を通じて保護者に参加してもらい、地域活動に参加することを醸成する。企画提案と、会議運営、実施運営の支援をする。子どもを対象とする団体が連携する。地域の中学校、高校及び大学にボランティアの協力を依頼する。	参加者:200名(10/30) ボランティア会議 10/23 出席者17名	
		森之宮地域では年50名程度の新生児が誕生しているが、子育てサロンの参加者が少なく、孤立している人のつながりが少ないため。	7月21日～11月22日 実施日11月22日	森之宮子育てサロンイベント実施の支援【再掲】	子育てサロンを知らない、子育て中の母親に対して、子育てサロン事業を知ってもらう。イベントを開催し、それをきっかけに子育てサロンに参加して、相談をしたり、つながりを作ってもらうために、イベント企画の支援する。	会議(出席:5名) 参加者:13組	

地域活動協議会への支援状況(運営)

【城東区】(受託者:一般財団法人大阪市コミュニティ協会)

自律	めざす姿	地域活動協議会の取組(※)	地域課題やニーズ(支援が必要な課題等)	実施時期	支援策(取組)名称	支援(取組)概要	実績(参加者数等)
地活協を構成する活動主体同士や、地活協と他の活動主体との連携・協働が促進されている		地域活動協議会を構成する活動主体同士の連携・協働(担い手の拡大含む)【地域活動協議会内部】	地域に対する愛着が薄く、活動に積極的に参加しない。地域マスコットを作成することで地域に愛着を持ち、地域活動に参加する人を増やすため。	4月1日～7月31日	城東地域マスコットキャラクターの募集及び著作権契約締結、デザインの利用方法の支援。【再掲】	広報部会のメンバーが中心となり、他部会のメンバーに募集告知を協力してもらい、地域マスコットキャラクターを住民に対して募集をおこない、キャラクターを通じて地域に愛着を持ってもらい、地域の象徴的なキャラクターとして、行事に参加をしてもらう。広報紙、ポスターなど媒体物に常に掲載することで、地域住民への浸透を目指す。募集方法、応募者とのキャラクターデザイン著作権契約の締結などの支援をおこなう。	広報部会(6/2,6/27,7/8 5名) 盆踊りで、発表。
			区内の各地域が、自地域の課題や解決の事例を紹介、交換することで、他の地域が課題解決のためのヒントを得るためや、課題を共有するため。	4月25日 6月29日	地域活動協議会間の情報交換会支援【再掲】	毎月1回、各地域が順次、主催地域となり実施する。運営方法や連絡、内容の作成などを支援する。地活協構成員や住民の参加を増やし、担い手の育成にもつとめる。ワークショップを取り入れる。構成団体の各メンバーが地域の活動やファシリテーター役となって議論を促進する。	今福地域(4/5 71名) 鯉江東地域(6/29 67名) 諏訪地域(9月予定)
			地域活動協議会の定例会は進んで来ているが、部会の会議が少ないので、部会としての活動を活発にする必要があるため。	6月1日～	各地域活動協議会の部会会議の実施と活性化	各地域の活動は形成以前の流れで単体で実施する場合があります、活動を担う者が減少してきているので、部会の活動を行えるように、会議を行い、担い手の応援を得るように働きかける。	成育地域:新規事業(ハロウィン)の企画 中浜地域:敬老大会企画会議の実施(2回) 放出地域:盆踊り会議
			広報が十分実施されていないので、情報が住民に届いていないため。	4月～7月8日	城東地域で広報部を設置して、部会会議を運営支援する。	ボランティアで参加していた広報紙作成を、広報部会を正式に設置し運営する。広報紙を発行するために、地活協内で団体の枠を超えて広報部会を設置する。広報紙作成の支援と地域の象徴のマスコットキャラクター、広報紙の名称を募集、契約等の支援をおこなう。	広報部会(6/2,6/27,7/8 5名)
			75歳以上が1000名以上いる地域で、高齢者に対する活動が少なく、高齢者間、地域と高齢者の繋がりが乏しいため。	5月20日～9月19日	中浜敬老大会の実施の事務支援【再掲】	敬老の日に合わせて、記念品を贈るのみであったが、高齢者を催し物会場へ招き、参加をすることで、同年輩の繋がりをつくるために記念行事をおこなう。会議資料の作成、福祉部会会議、役員会の運営などの事務支援をおこなう。また、部会内の団体が連携をとり実施運営するための運営支援をおこなう。	福祉部会(7/29:12名) 大会参加者:180名
			放出地域活動協議会の部会の事業は、以前から主管している団体が実施し、部会を中心としての活動が少ないため。	6月～	放出地域活動協会・部会の活性化	既存団体が主管していた盆踊りを、コミュニティ部会を中心に地域団体が連携して実施する。	コミュニティ部会実施(6月6日、7月8日)
			葦地域で子どもがテーマの井戸端会議を実施した。子供に関わりのある区内の団体が参加し、子どもの貧困が課題となる。	7月5日	子ども食堂の現状の情報提供【再掲】	子どもの貧困が、地域内だけでなく、地域外でもあることを説明し、その対応のために個人が「子ども食堂」をおこなっている情報を提供し、今後の子供に対する新たな活動を考えるための支援する。	井戸端会議参加者:24名(小学校、学童保育、児童いきいき活動他 11団体)
			将来の担い手づくりが少なく、また現在、児童の保護者が地域活動に参加することが少ないため。	8月15日～10月30日	成育地域ハロウィン事業の企画・実施支援【再掲】	新規事業として第1回目を実施。児童に地域活動の楽しさを体験してもらい、将来積極的に活動に参加するために実施する。同時に児童を通じて保護者に参加してもらい、他の地域活動にも参加することを醸成する。企画提案と、会議運営、実施運営の支援をする。子ども対象としての団体が連携をして実施する。地域の中、高校及び大学などの参画を案内する。	参加者:200名(10/30) ボランティア会議 10/23 出席者17名
			地域活動をする住民が少なく、担い手確保の発掘、方法が思いつかない。	10月21日～1月9日	今福成人式の企画・実施支援	高齢化が進み、地域活動をする担い手の確保が難しい。また発掘の方法が思いつかないので新成人を対象に、成人式企画・運営をきっかけに地域活動に興味をもってもらえるように支援する。	成人式実行委員会(12/15 5名)
			地域で高齢者が多くなってきている中で、各団体の情報や課題の把握が共有されていない。	11/29～1/31	地域福祉情報共有の会議の企画、実施支援【再掲】	東中浜地域、鯉江東地域、城東地域、今福地域で提案する。地域福祉に関して、高齢者、幼児、児童を対象とする団体が把握している情報を共有して、課題の確認、共有をおこなう。福祉情報の共有会議を契機に地活協の福祉部会の実施をおこなう。	実施地域 城東地域(1/31 17名) 今福地域(1/27 12名)

地域活動協議会への支援状況(運営)

【城東区】(受託者:一般財団法人大阪市コミュニティ協会)

めざす姿	地域活動協議会の取組(※)	地域課題やニーズ(支援が必要な課題等)	実施時期	支援策(取組)名称	支援(取組)概要	実績(参加者数等)
自律	地域活動協議会と他の活動主体との連携・協働【外部との連携・協働】	担い手づくりが少なく、また現在、児童の保護者が地域活動に参加することが少ないため。	8月15日～10月30日	成育地域ハロウィン事業の企画・実施支援【再掲】	新規事業として第1回目を実施。児童に地域活動の楽しさを体験してもらい、積極的に活動に参加するために実施する。同時に児童を通じて保護者に参加してもらい、地域活動に参加することを醸成する。企画提案と、会議運営、実施運営の支援をする。子どもを対象とする団体が連携する。地域の中学校、高校及び大学にボランティアの協力を依頼する。	参加者:200名(10/30) ボランティア会議 10/23 出席者17名
		地域にある病院とは連携し事業を進めているが、企業、店舗等と連携ができていないので、連携のできる場所から始める。	11月～2/4	連携を取れる企業を探し、企画提案をおこなう。	連携が進んでいる病院では、院内の施設を利用し健康講座などを実施しているが、地域の企業や店舗等などでは、連携が進んでいない。コーヒーと健康などの住民が関心があり、企業等とテーマが同じもので、連携をとり事業を実施する。	2月4日開催(参加者 40名)
	地域公共人材の活用	各校下で地域公共人材の活用方法を知る機会がないので、地域公共人材の活用方法を知る機会をつくるため。	4月25日	情報交換会時におけるファシリテーターの重要さと地域公共人材の説明	主に各地活協役員、メンバーが参加している情報交換会で、ファシリテーターの必要性と地域内でファシリテイトができる人材の育成に関しての情報提供をおこない、支援員がファシリテーター役をおこない、地域公共人材の活用につなげる。	情報交換会(4月、6月実施)
		諏訪地域で広報紙を発行しているが、より見られる広報紙のデザインをするために、地域公共人材の活用の検討する。	5月30日～	広報紙作成のために地域公共人材の活用	地域では、広報紙を発行しているがより見られる広報紙を作成するため、地域公共人材という制度があり、外部力も必要であり、活用の必要性を訴えて検討を勧める。	広報会議(4名)
		地域活動協議会の活動を前向きに取り組んでおられる人を対象に、地活協の意義や理解をいっそう深めるため。	10月～1月17日	地域活動協議会勉強会の実施の場で活用する。	地域で地域活動協議会の取り組みを前向きにおこなっているが、地域の自律や地域活動協議会の運営に関して、より一層理解を深めるために学習機会を設け支援する。なお、地域公共人材を活用することで、他地域との意見交換をもスムーズにおこなう。また地域で地域公共人材の活用して、部会運営をすることを勧める。	参加者:10/11(20名)、11/7(16名) 12/15(16名)、1/17(名)

地域活動協議会への支援状況(運営)

【城東区】(受託者:一般財団法人大阪市コミュニティ協会)

めざす姿	地域活動協議会の取組(※)	地域課題やニーズ(支援が必要な課題等)	実施時期	支援策(取組)名称	支援(取組)概要	実績(参加者数等)	
自律	Ⅲ 組織運営						
	めざす姿	地域活動協議会の取組(※)	形成以前の各団体では、予算総会、決算総会を実施する地域が少く、また今年度は、運営委員の改選があり、ノウハウの継承を深める必要があるため。	5月1日～31日	各地域運営委員会、総会の運営支援(開かれた組織運営)	区内全16地域活動協議会において、規約に基づいた運営委員会を開催し、適正な運営の支援を行った。事前に役員と打合せを行い、開催案内やレジュメの作成・進行などは地域で運営できるよう支援した。会議終了後は、事業報告書、決算書、議事録などを事務所内で閲覧可能とするための支援をおこなう。	16地域総会、運営委員会出席
			議決機関(総会・運営委員会等)の適正な運営				
	民主的で開かれた組織運営と会計の透明性が確保されている	地域活動協議会の取組(※)	本会計が地活協会計の決算を取りまとめて決算、補助金報告書作成を担っているが、理解が不足している場合がある。	4月1日～	H27年度決算報告・事業報告の作成支援	補助金精算報告書の確認をおこないつつ、本会計に改めて会計事務を説明指導すると同時に、作成支援をする。また、事業会計の担当者、随時会計事務の説明をおこなう。	16地域活動協議会
			補助金精算報告書、事業結果報告書作成の理解を深めるため。	4月1日～5月31日	H27年度決算報告・事業報告の作成支援	補助金精算報告書の確認をおこないつつ、本会計に改めて会計事務を説明指導すると同時に、作成支援をする。	16地域活動協議会
			部会会計担当者の会計情報とルールの共有化を進めるため。	4月～	中浜地域部会会計の定例会化	月一回の会計担当者会議の実施により、会計事務、決算報告の課題などの説明をおこない、各担当者の理解を深める。	会計担当者会議(4/12、5/23/、6/21、7/19)
			本会計が地活協会計の決算をおこなうが、決算、補助金報告書作成の理解が不足しているため。	4月1日～5月31日	H27年度決算報告・事業報告の作成支援	補助金精算報告書の確認をおこないつつ、本会計に改めて会計事務を説明指導すると同時に、作成支援をする。新任の会計担当者に改めて、会計事務の説明をおこなう。	今福地域、成育地域
			決算報告書等の提出時に十分でない箇所があるので、会計担当者の理解を深めるため。	5月2日～6月27日	H27年度決算報告・事業報告の作成支援及び会計説明会	補助金精算報告書の確認をおこないつつ、本会計に改めて会計事務を説明指導すると同時に、作成支援をおこなう。書類の提出後は、会計担当者と決算課題の検討をおこなう。	鳴野地域活動協議会 会計担当(13名) 中浜地域活動協議会 会計担当(5名)
			会計担当者が交代し、新会計担当者に前任者から会計の継承がおこなわれていないため。	6月10日	成育地域3部会会計会議	地域団体の役員交代が2年に1度あるので、新任が担当すれば、最初から事務を理解しなくてはならない。本会計→部会会計→事業会計の順に会計を確認、説明ができるように仕組みを作る。また本会計から、新任の会計担当者が理解できるように説明し、ルールを共有化するために、会計会議の運営支援をする。	成育地域活動協議会 部会会計及び本会計他(6名)
			予算書、決算書等の作成を期限に間に合わせるための事前準備が十分でないため。	12月14日	鳴野地域会計会議	予算報告、決算報告作成の区役所説明会後に改めて、質疑、作成方法を各事業会計に説明する場を設けて、全会計担当者に情報共有をおこなう。	会計担当者:6名
会計担当者が交代し、新会計担当者が理解を深めていないため。			1月～	H29年度予算作成支援	地域によって地域差はあるが、平成29年度予算案、事業計画案の確認と作成支援をする。	16地域活動協議会	
成育地活協の各部会で予算の検討を行っていないため。	1月24日	成育予算合同会議運営支援	定期的に部会を実施しておらず、予算作成の検討する場がないので、3部会の合同会議と各々の部会を開催して、予算の検討をする。	出席者:部会会計、事業会計16名			

地域活動協議会への支援状況(運営)

【城東区】(受託者:一般財団法人大阪市コミュニティ協会)

自律	めざす姿	地域活動協議会の取組(※)	地域課題やニーズ(支援が必要な課題等)	実施時期	支援策(取組)名称	支援(取組)概要	実績(参加者数等)
民主的で開かれた組織運営と会計の透明性が確保されている	多様な媒体による広報活動		地域に対する愛着が薄く、活動に積極的に参加しない。地域マスコットを作成することで地域に愛着を持ち、地域活動に参加する人を増やすため。	4月1日～7月31日	城東地域マスコットキャラクターの募集及び著作権契約締結、デザインの利用方法の支援。【再掲】	広報部会のメンバーが中心となり、他部会のメンバーに募集告知を協力してもらい、地域マスコットキャラクターを住民に対して募集をおこない、キャラクターを通じて地域に愛着を持ってもらい、地域の象徴的なキャラクターとして、行事に参加をしてもらう。広報紙、ポスターなど媒体物に常に掲載することで、地域住民への浸透を目指す。募集方法、応募者とのキャラクターデザイン著作権契約の締結などの支援をおこなう。	広報部会(6/2,6/27,7/8 5名) 盆踊りで、発表。
		広報紙を継続的に発行するために、広報紙発行の企画会議がされていない。	6月24日～	諏訪地域広報紙発行の支援	広報会議を実施して、企画の検討、役割分担、記事作成などの作成支援をする。また、より良い内容にするために、地域公共人材の派遣を活用して、広報会議運営や広報紙作成などの協力を得ることを地域に提案する。	広報会議(6/30,7/8 6名)	
		城東地域SNSを利用した広報担当者が一人で、発信力が弱い。	6月28日～	城東地域のフェイスブック編集者・投稿者数の増加の支援	フェイスブックの編集者、投稿者数を増やすために、広報部メンバーに操作方法を伝える。また、広報紙による編集者募集をおこない、増員する。	編集者:5名	
		行事の告知をポスター、チラシを利用している。他の広報媒体を利用することで、住民に対して情報が届きやすくなるが、利用できる媒体を地域では知らない。	7月11日～14日	今福まつりにおけるプレリリースを利用した広報活動	今福まつりに子ども対象の新規の講座をおこないのに合わせて、ポスター、チラシ、フェイスブック以外の新たな告知方法を知り、利用するきっかけにするために支援する。	プレスリリース先:10社(テレビ局、新聞社)	
		広報紙を発行しているが、見てもらえる広報紙の作成と、スキルアップのため。	9月1日～	城東地域広報部会の住民に見てもらえる広報紙作成支援	広報部会を設置して、広報紙の発行を積極的に実施するようになってきた。より良く住民に見てもらえるために、スキルアップをおこなう。住民に見てもらえる広報紙の作り方の勉強会や、取材の方法を支援する。	勉強会:9月5日 6名	
		成育地域で広報紙発行が発行されていないので、発行支援をする。	10月13日～	成育地域広報誌の企画、編集発行の支援	地域活動協議会の広報が十分されておらず、地域活動協議会及び実施事業の認知度が低い。広報誌を発行し活動を住民に知らせるため、事務担当の支援をおこない作成する。また合わせて、編集者を発掘するための支援する。	広報会議(11/15、12/21,22,27,1/6,17 10名)	
		鯉江地域活動協議会の広報紙を発行していないため。	11月28日～	鯉江東広報紙の企画、編集発行の支援	地域として、広報紙を発行しておらず、地域活動協議会で実施している事業をより認知させるために、企画、原稿を作成し、役員と検討し、編集者を募集する。	(3月発行予定)	
		放出地域の広報紙を少人数で作成しているため、編集者を増やす。	12月14日～	広報紙編集員を募集し、広報紙第2号を発行する。	広報誌第1号を発行したが、編集者が少数なので、編集者を募集し広報会議を開催して、広報紙の作成をおこなう。また、広報部員から、フェイスブックの投稿を出来るように支援する。	広報会議(12/14 3名、1/13、1/29 18名)	
		森之宮地域の広報紙を少人数で作成しているため、編集者を増やす。	12月4日～	広報紙編集員を募集し、広報紙第2号を発行する。	広報誌第1号を発行したが、2号の集者者を募集、編集の会議を実施する。	応募1名	

地域活動協議会への支援状況(運営)

【城東区】(受託者:一般財団法人大阪市コミュニティ協会)

自律	めざす姿	地域活動協議会の取組(※)	地域課題やニーズ (支援が必要な課題等)	実施時期	支援策(取組)名称	支援(取組)概要	実績 (参加者数等)
	IV 区独自取組						
(区が「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」において設定している具体の取組を右欄に記載)	CB/SB化の勉強会、情報提供、意向調査の実施	葦地域で子どもがテーマの井戸端会議を実施した。子供に関わりのある区内の団体が参加し、子どもの貧困が課題になった。	7月5日	子ども食堂の現状の情報提供	子どもの貧困が、地域内だけでなく、地域外でもあることを説明し、その対応のために個人が「子ども食堂」をおこなっている情報を提供し、今後の子供に対する新たな活動を考えるための支援する。	井戸端会議参加者:24名(小学校、学童保育、児童いきいき活動他 11団体)	

※具体的な取組については「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」を参照